有明海再生機構主催
有明海市民講座

平成27年6月24日（水）

第9回

ノリ養殖の現状

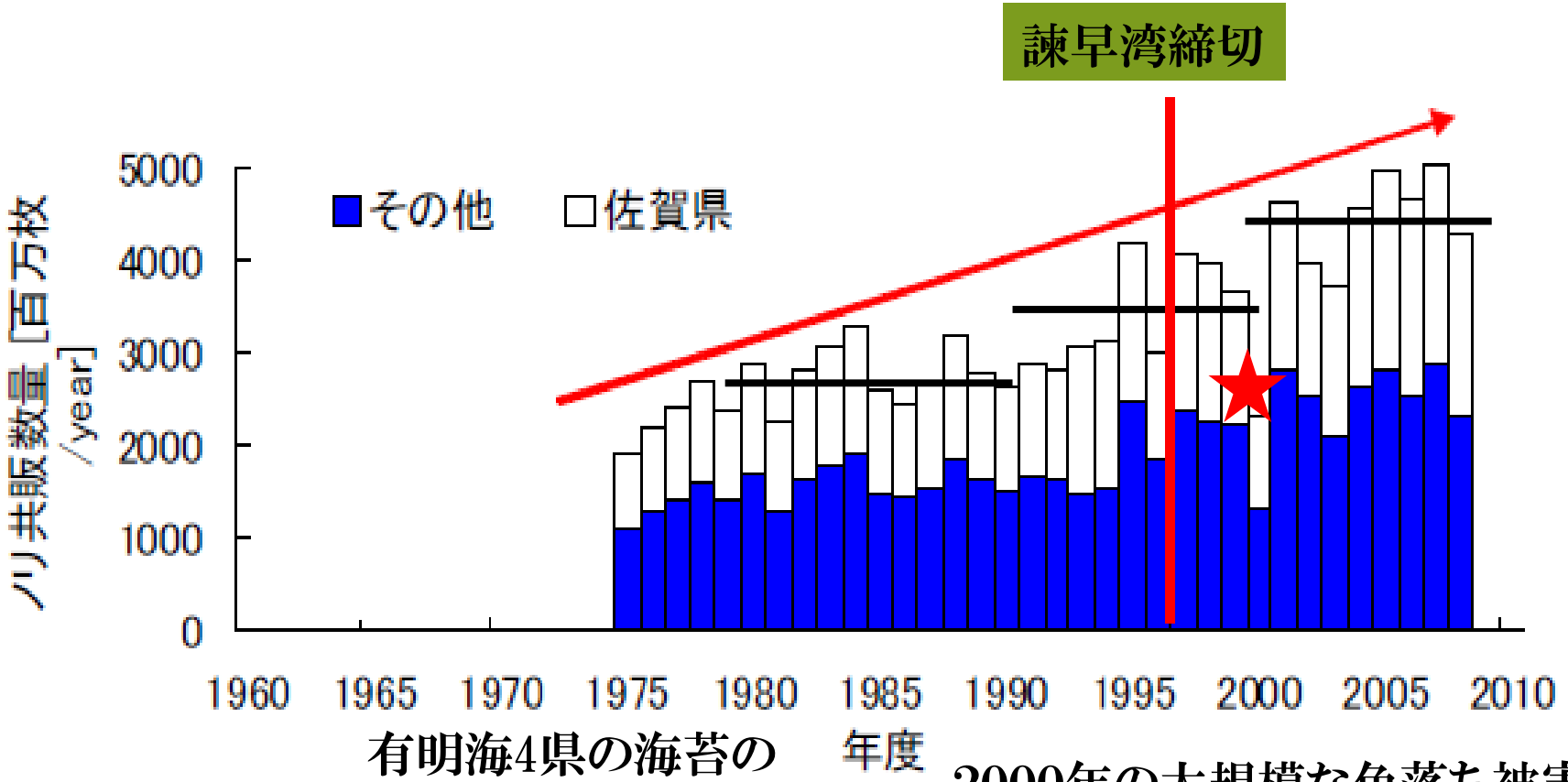
有明海再生機構　顧問

荒牧 軍治

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

有明海におけるノリ生産

比較的安定的に推移



有明海4県の海苔の
生産枚数の推移

2000年の大規模な色落ち被害

特異な事象（自然災害）

リゾソレニア・インブリカータ（大型珪藻）

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

2000年冬～2001年春大規模な海苔の色落ち

環境省有明海・八代海総合調査評価委員会報告書p34

2000年に有明海で大発生したリゾソレニア・インブリカータは2000年前にも赤潮レベルに達した。リゾソレニア・インブリカータは外海に生息し（休眠期細胞が発見されていない）、低塩分の夏期には湾内への侵入が阻まれるが、高塩分状態（30～35）になるときに湾内に進入して高い日照条件下で大発生する。大型珪藻は特殊な条件が整ったときに大発生する赤潮である。

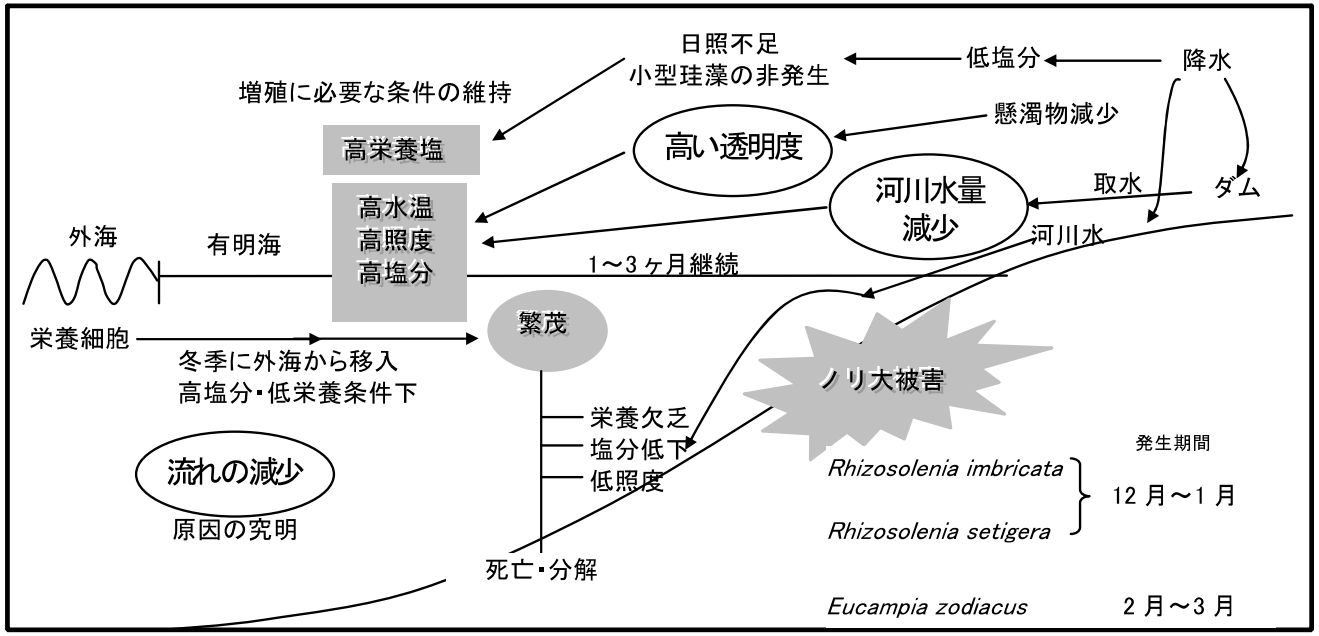


図 3.8.2　大型珪藻類の発生機構

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

佐賀県有明海水産振興センターは近年のノリ養殖の状況をどう見ているか

「有明海佐賀県海域の海況と漁業等の現況」（平成25年3月）より

1）主な養殖作業

採苗：　平成11年度まで10月上旬、12年→10月12日、16年→11日
平成19年度以降は中・下旬　平成19年→10月25日

網の撤去：　平成12年度→4月30日を除き、平成13年までは3月末まで
それ以降は4月上・中旬まで延長

2）病害等の発生

ノリ容態が緑色に変色、白く脱色して網から脱落

壺状菌病：　毎年発生　平成5～8年は10月下旬に確認　それ以後は11月以降
近年は秋芽網期、冷凍網期ともに大被害になることはない

穴があいたり、色が赤くなる

アカグサレ病：　毎年発生　甚大な被害は平成8，15，23年

淡い赤色を呈する→製品加工する過程で表目が墨を塗ったように黒くなり艶が無くなる

スミノリ病：　活性処理が導入された平成5年度以降では平成14年度のみ

色落ち：　毎年発生　平成5，9，18，19、24年度はほとんど被害無し
冷凍網期　西・南部での頻度が高い　20～23年度は被害著しい

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

1）乾海苔の生産状況

生産枚数：　アカグサレ病と色落ち　平成8年度→11.5億枚　12年度→9.9億枚
平成16年度以降は17.9億枚以上と安定

生産金額：　平成8、12年度は低かった　平成16年以降は191億円以上と安定

平均単価：　平成5年～15年までは変動幅大　16年以降は低位安定

生産状況は、平成5～15年度までは不安定、平成16年度以降は変動幅が少なくなって高位安定して連続10年日本一を維持している

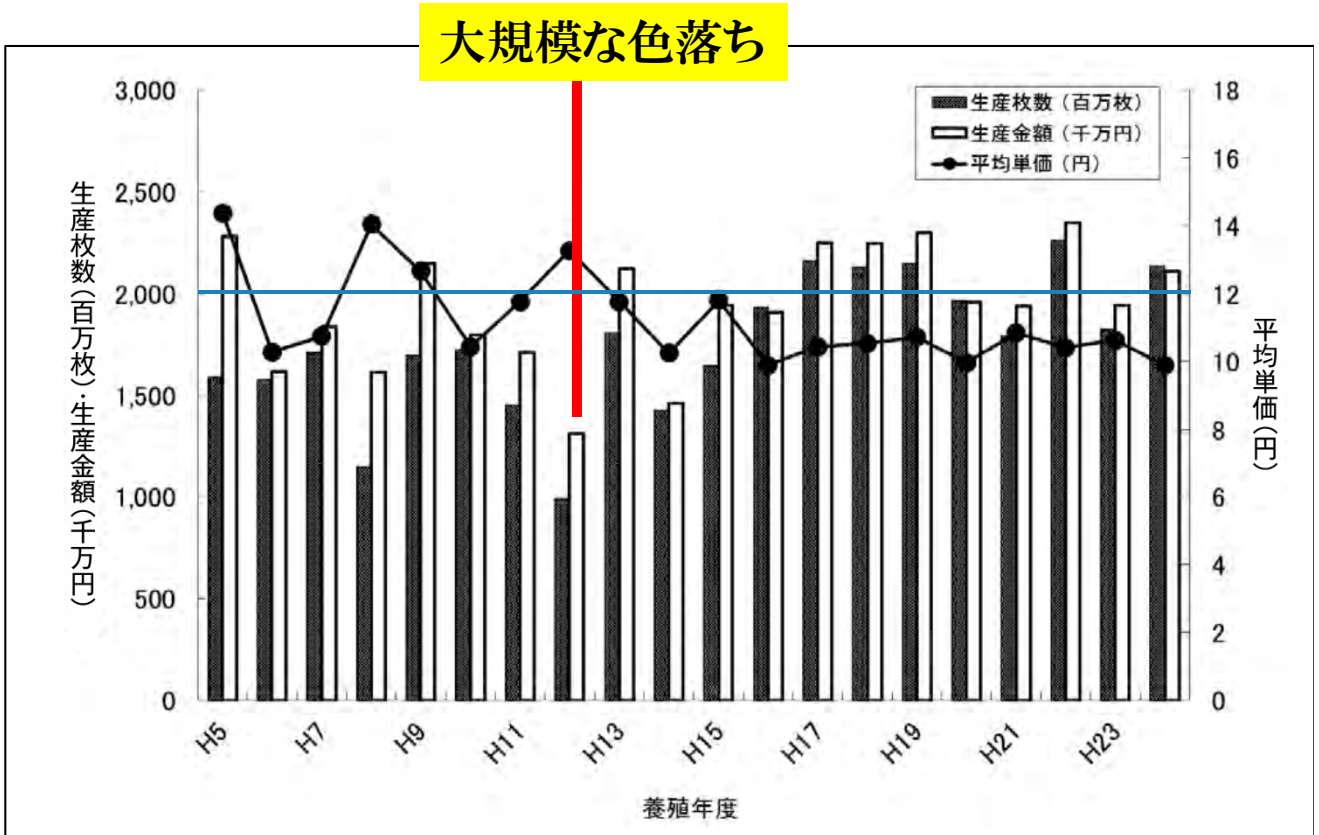


図72　佐賀県有明海海域のノリ生産状況の変動

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

海苔養殖と環境場の関係

- 流れ：　20cm/sec 程度
- 波浪：　風波浪階級2 以下（波高0.1～0.5m）で養殖継続限界
- 光：　採苗・育苗期で 3,000～8,000lux、育成期で7,000～12,000lux
- 濁り：　SS 10mg/L 以下が良
- COD：　2mg/L 以下が望ましい
- 栄養塩：　平均流速10～30cm/sec で
  DIN 5～7μg-at/L（全窒素70～98μg/L）、リン7～14.3μg/L
- 塩分：　採苗期28～34（最低20）、育苗期25～35（最低18）、養成期22～33（最低18）

表 3.11.1　東京湾におけるノリの不成立経過

項目	NH_4-N（μg/L）	COD（ppm）
養殖成立	trace	<1
質・量最高	50～100	1.5～2
病害の兆し 質・量低下	300～600	2
養殖中止	>1000	3

出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員（当時）発表資料］

表 3.11.2　ノリの主な病気

病名	原因	対処
赤ぐされ病	菌類の１種	摘み取り、高吊り
壺状菌病	菌類の１種	（酸処理）、入庫
スミノリ	針状細菌	酸処理
色落ち	植物プランクトン	
バリカン	淡水その他海洋条件	
アオノリ	緑藻の混生	酸処理

出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員（当時）発表資料］

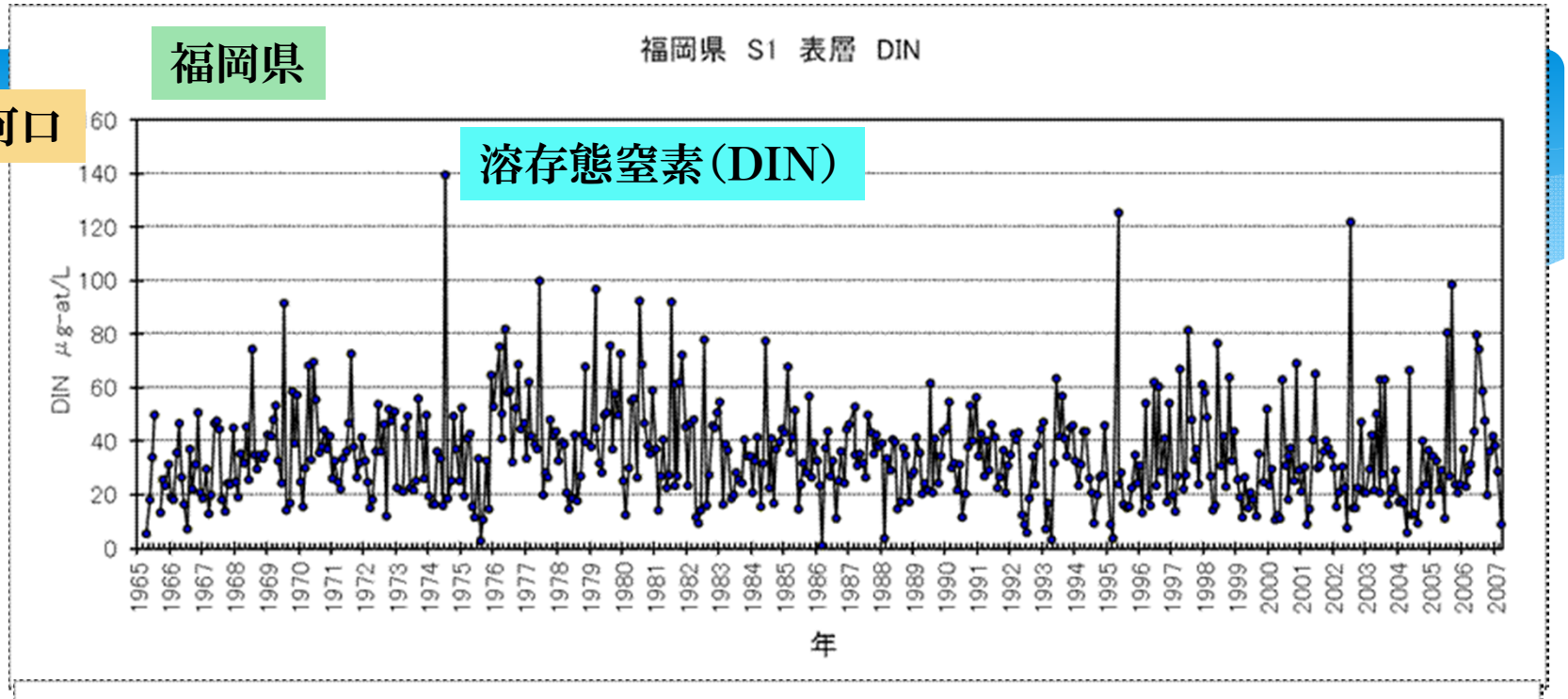
第6回環境省有明海・八代海総合調査評価委員会　資料-2

DIN　7μg-at/L＝100μg/L

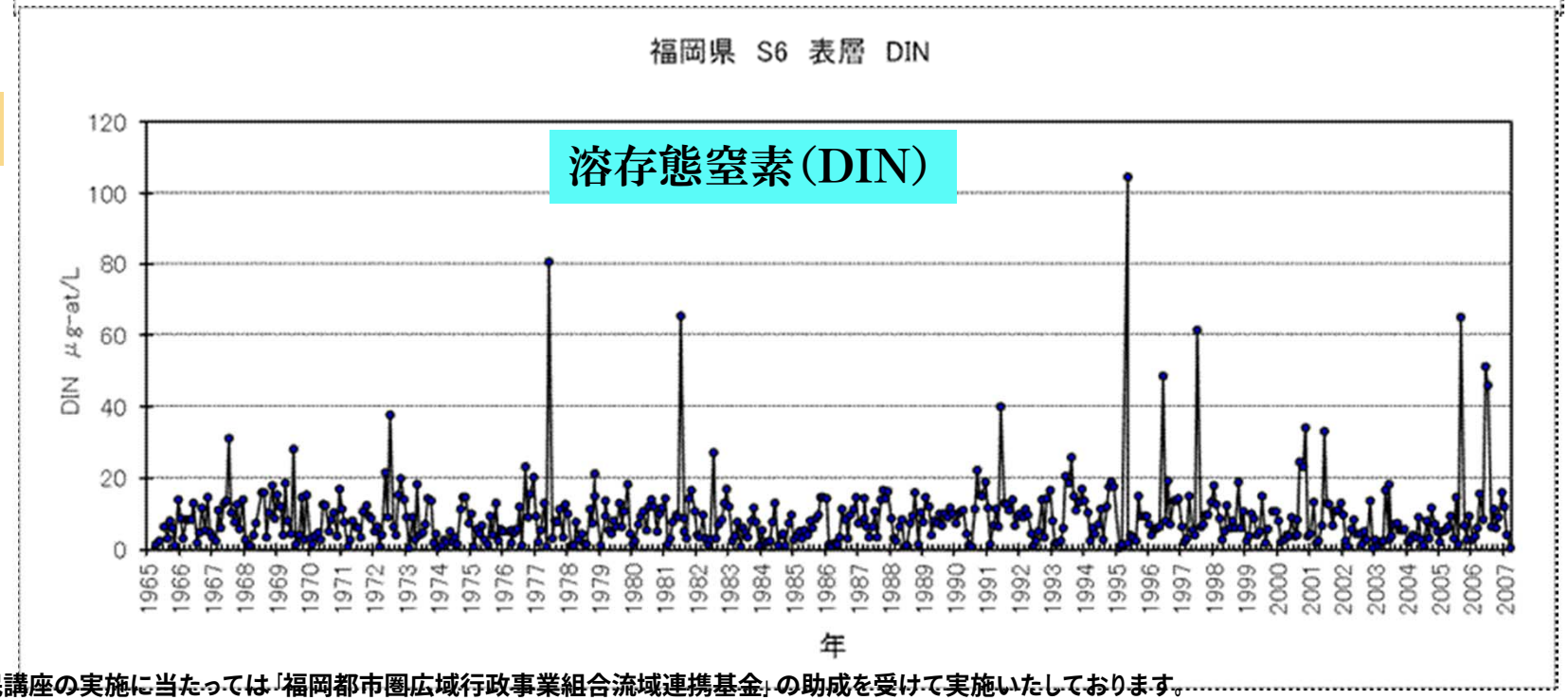
白石地先：大潮48 cm/s（平均25cm/s）
　　小潮40 cm/s（平均17cm/s）

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

筑後川河口

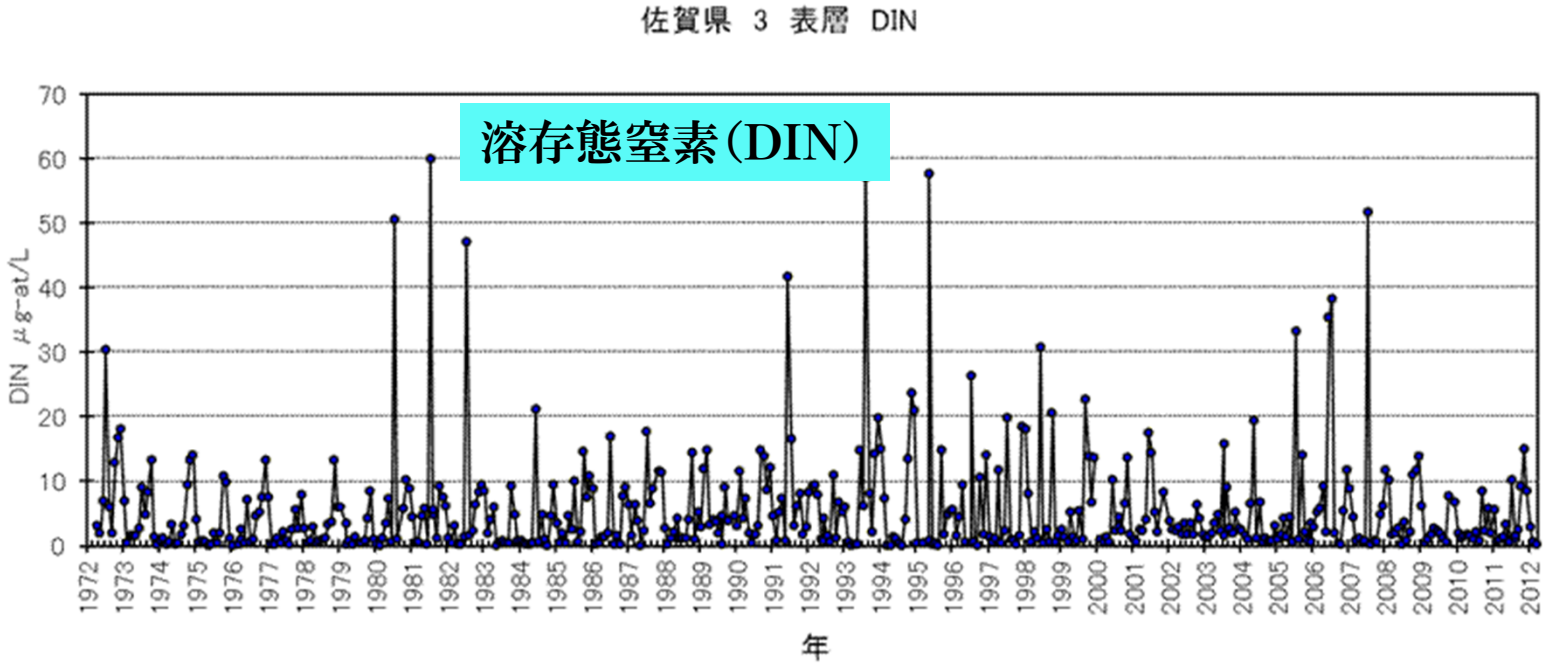


荒尾沖

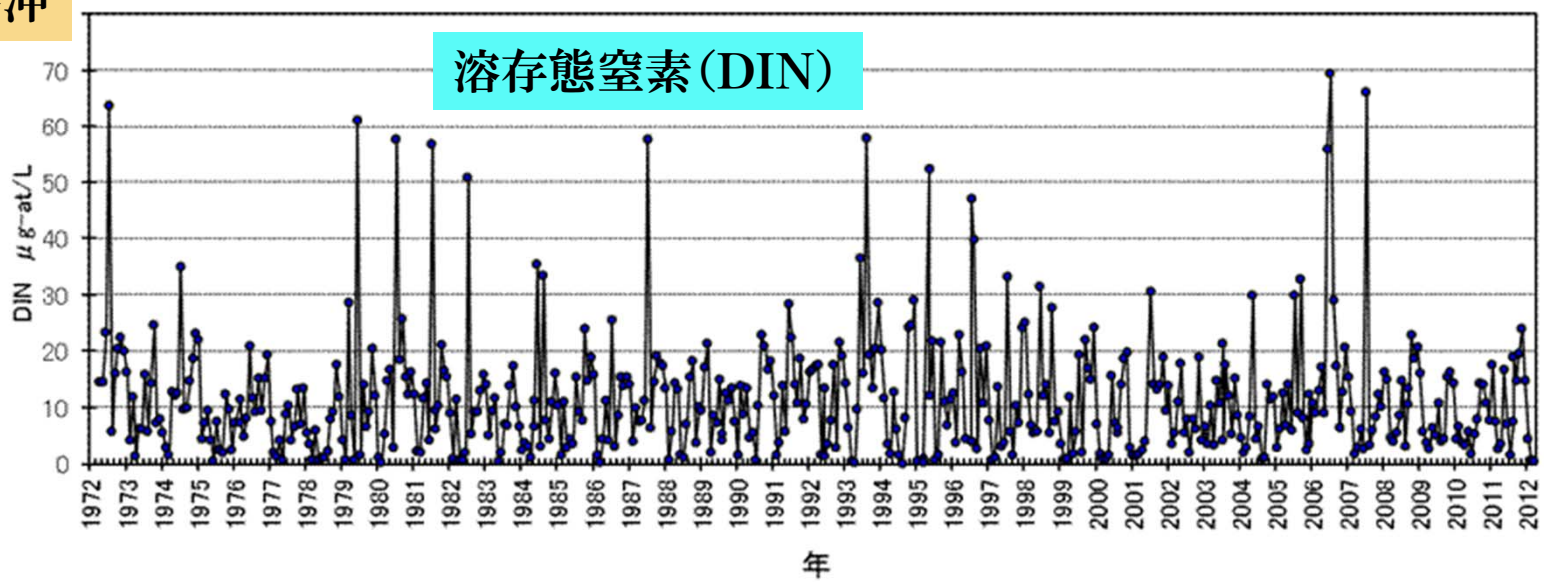


この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

太良沖

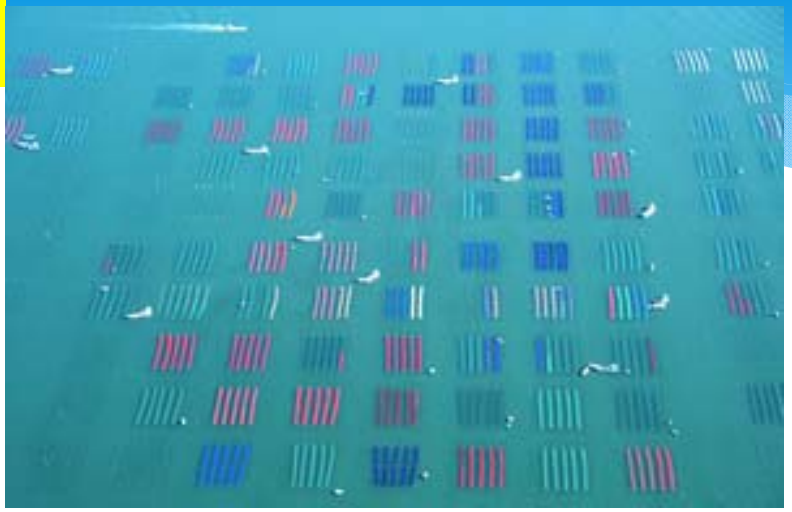


佐賀空港沖

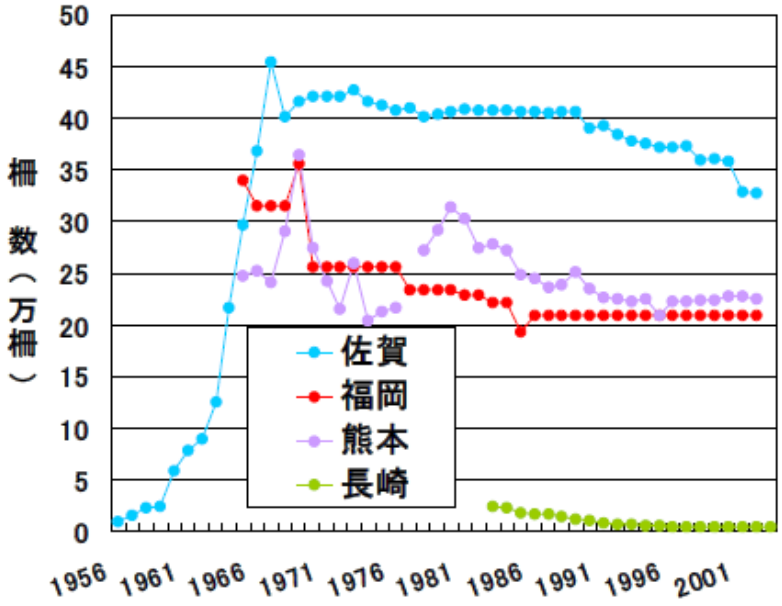


この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

柵

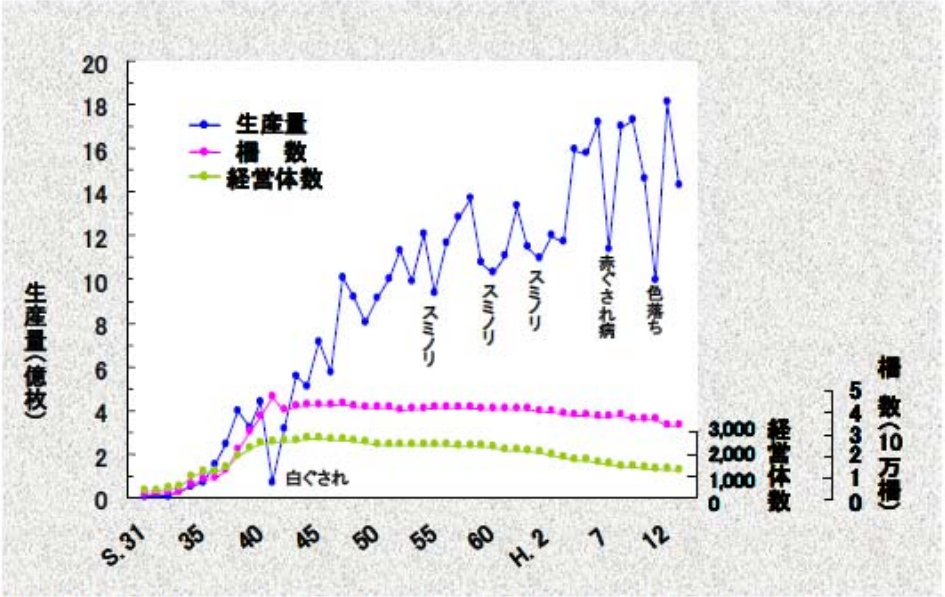


この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。



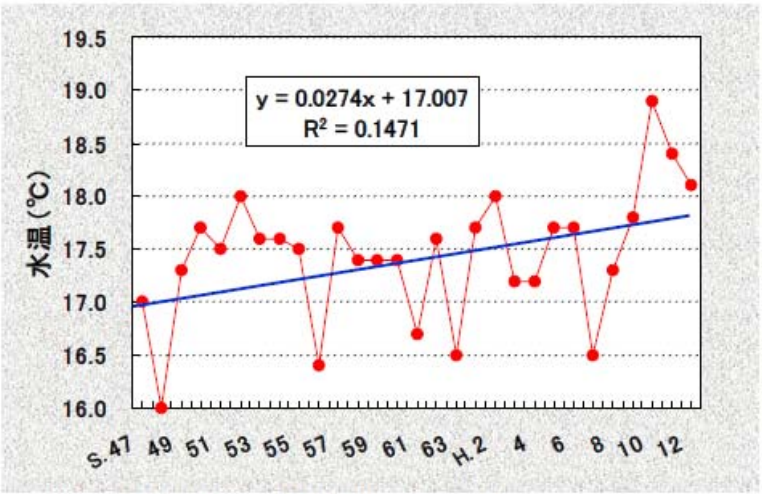
出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員（当時）発表資料］

図 3.11.2　有明海のノリ柵数



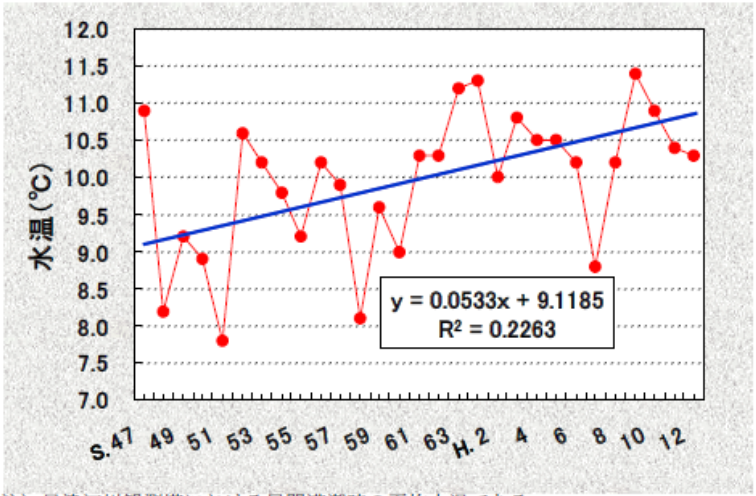
出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員（当時）発表資料］

図 3.11.3　佐賀県のノリ生産量及び柵数等の推移（養殖年度）



注）早津江川観測塔における昼間満潮時の平均水温である。
出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員（当時）発表資料］

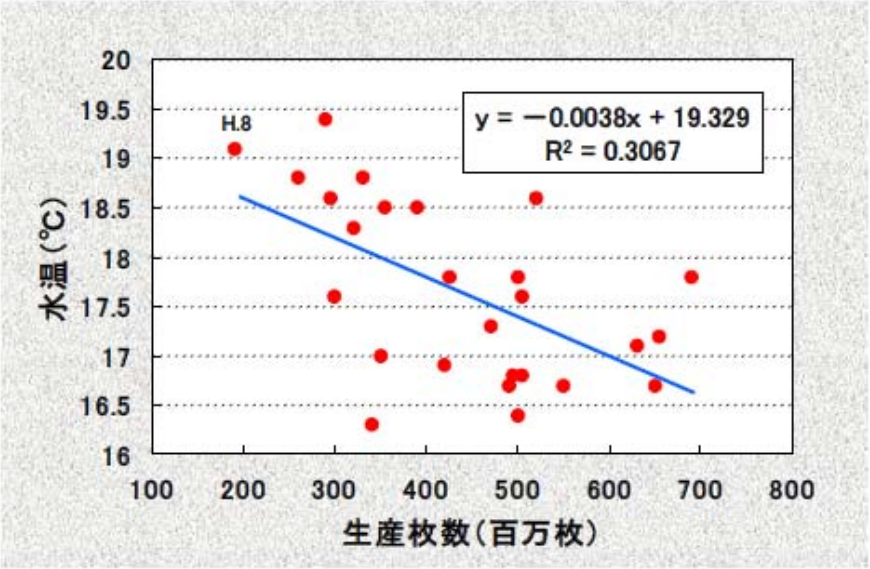
図 3.11.4(1)　佐賀県海域における水温の年変動：10～12 月



注）早津江川観測塔における昼間満潮時の平均水温である。
出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員（当時）発表資料］

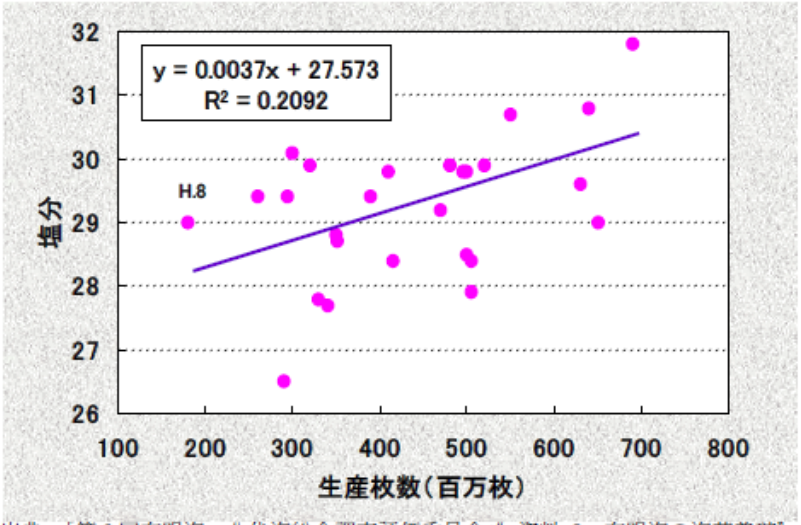
図 3.11.4(2)　佐賀県海域における水温の年変動：1～3 月

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。



出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員(当時)発表資料］

図 3.11.4(3)　佐賀県海域における秋芽網期生産と水温との関係



出典：「第６回有明海・八代海総合調査評価委員会」“資料-2　有明海の海苔養殖”
［鬼頭委員(当時)発表資料］

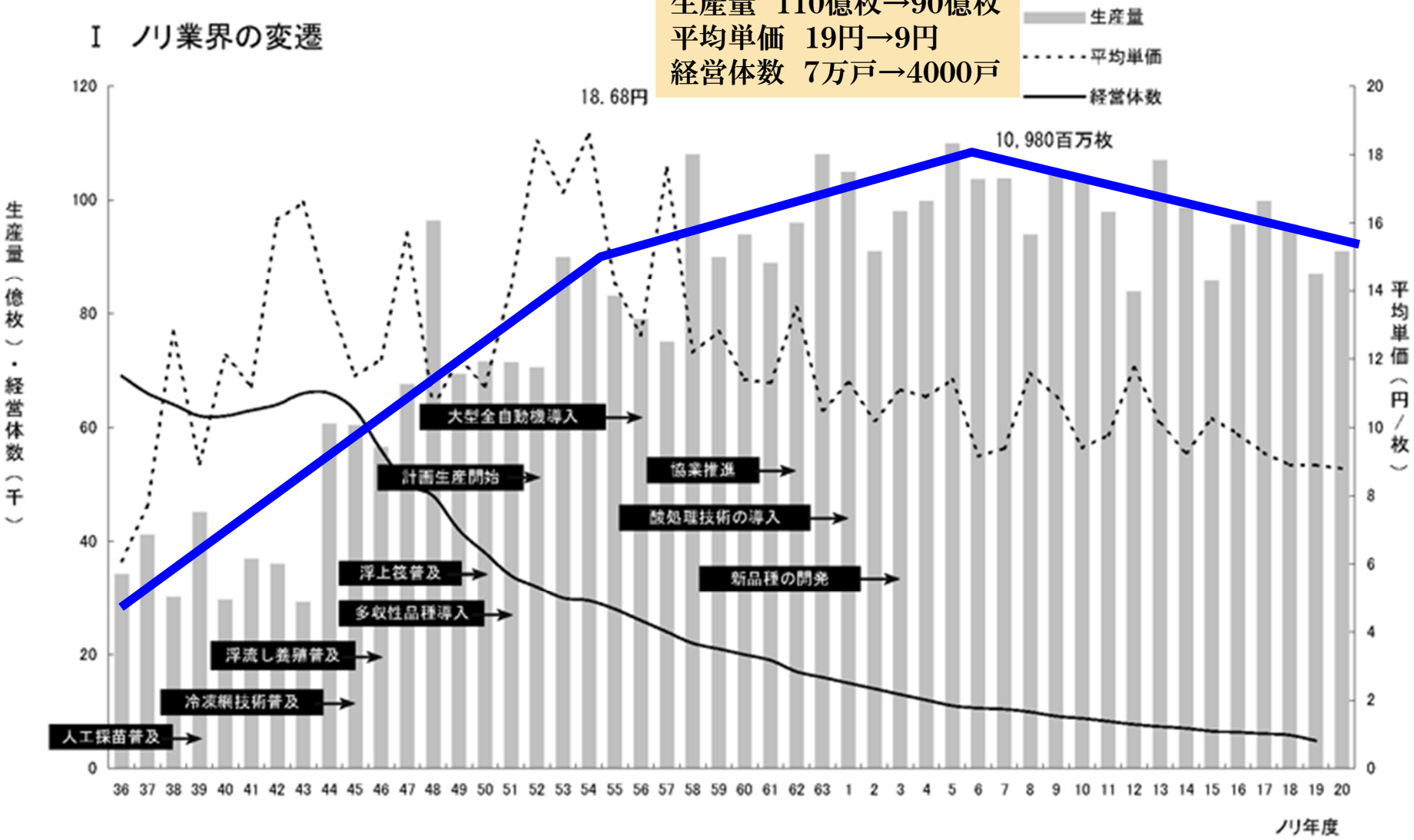
図 3.11.4(4)　佐賀県海域における秋芽網期生産と塩分との関係

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

全国の海苔業界の変遷

全国海苔貝類漁業協同組合連合会
ホームページ（海苔業界の現況―平成20年度の動向）より

生産量　110億枚→90億枚
平均単価　19円→9円
経営体数　7万戸→4000戸



図－１　技術の変遷と生産量、平均単価、経営体数の推移

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

地区別共販数量の推移

(社法)中小企業診断協会佐賀県支部
「佐賀県におけるノリ養殖協業体の現状と課題」より

全国的には： 増加→ピーク(平成5年頃)
→減少へ

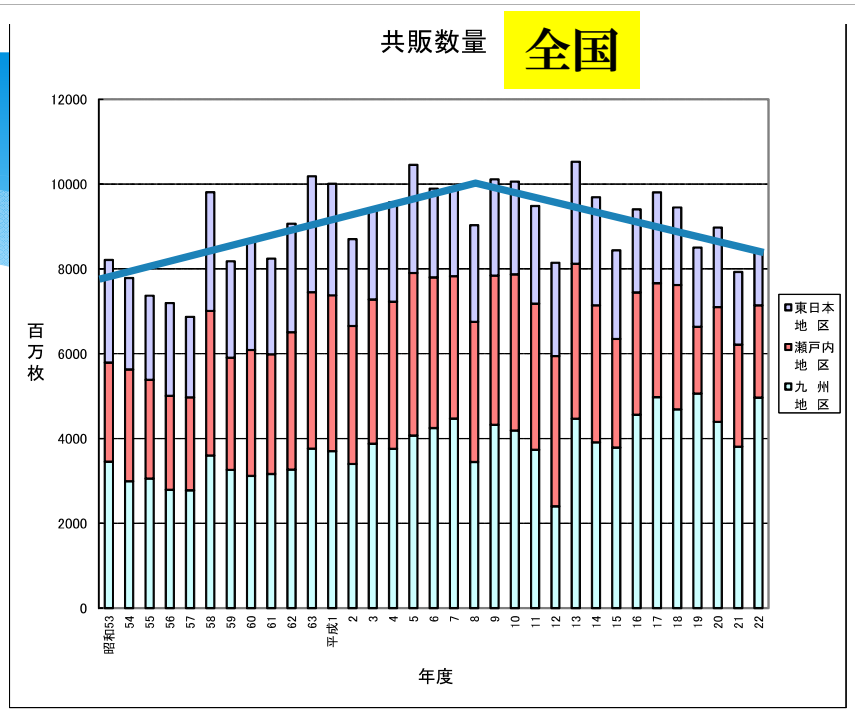
東日本地区： 横ばい→減少へ

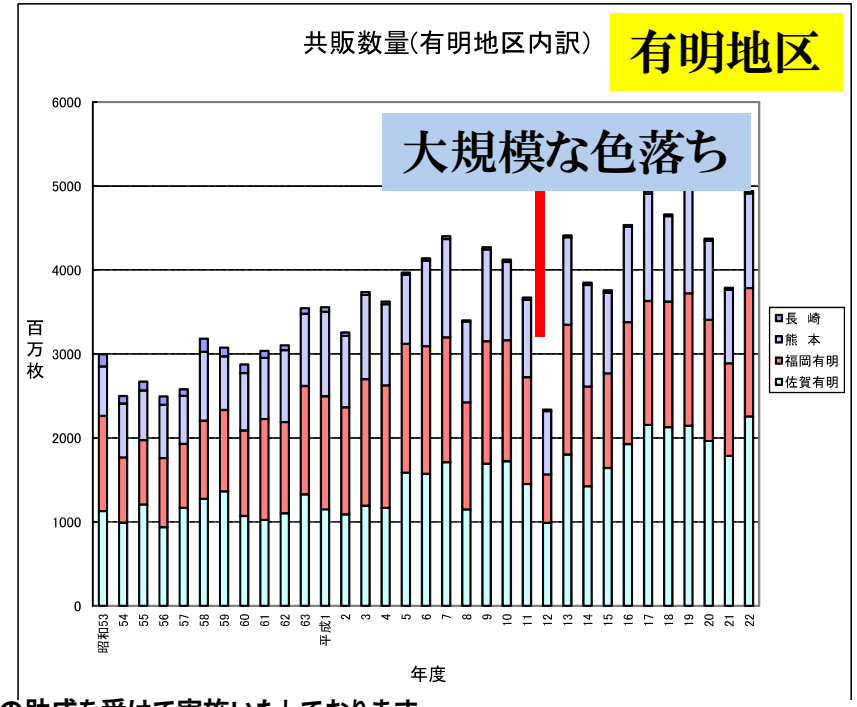
瀬戸内地区： 増加→ピーク(平成5年頃)
→減少へ

有明海地区： 増加→異変(平成12年)
→横ばいへ

熊本県・福岡県： 増加→横ばいへ

佐賀県 増加 (最近は横ばい)





この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

有明海・瀬戸内海におけるノリ生産の変遷

有明海

佐賀

生産枚数高止まり

福岡・熊本

生産枚数横ばい

瀬戸内海

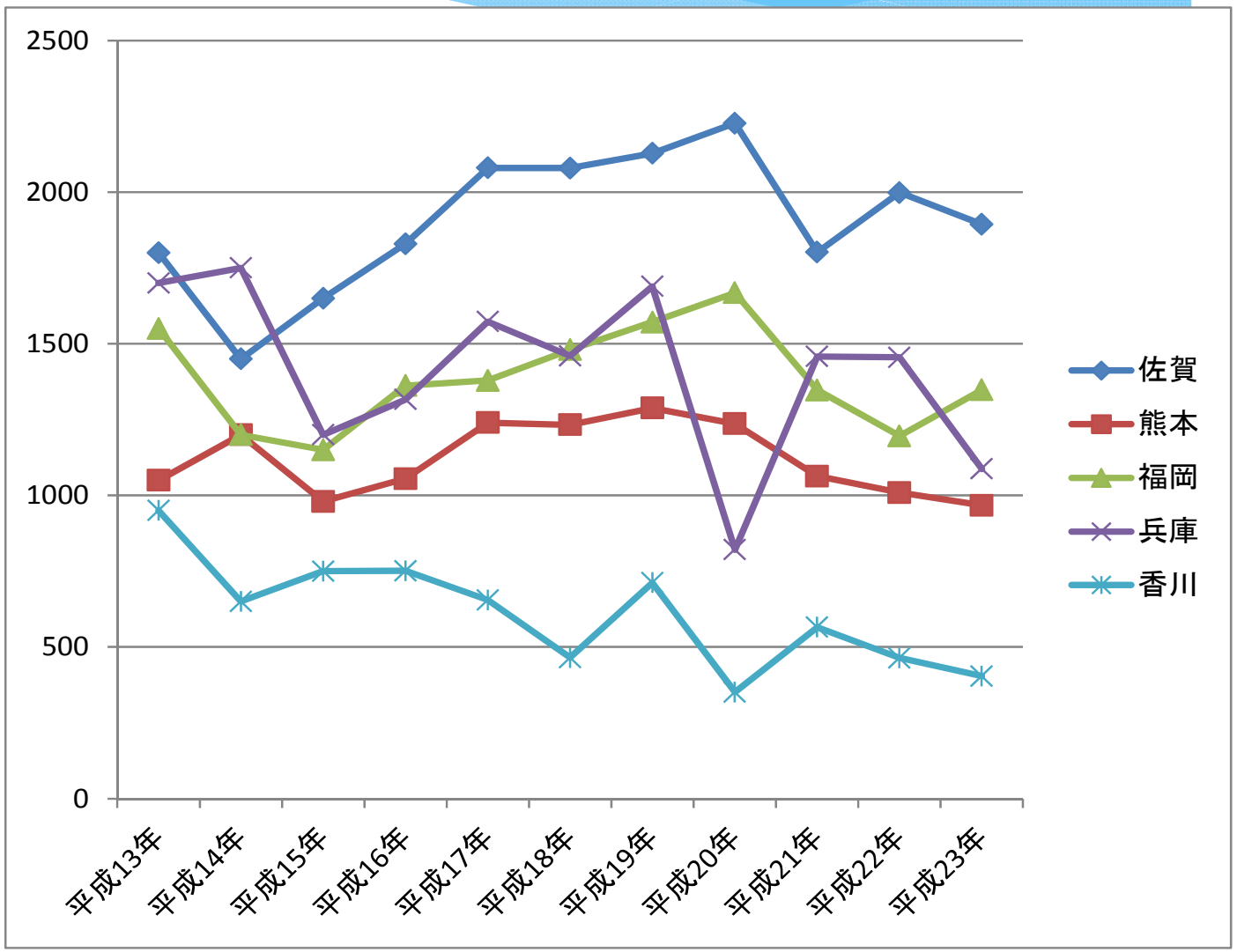
兵庫

生産枚数減少

香川

生産枚数減少

栄養塩不足



この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

地区別共販金額の推移

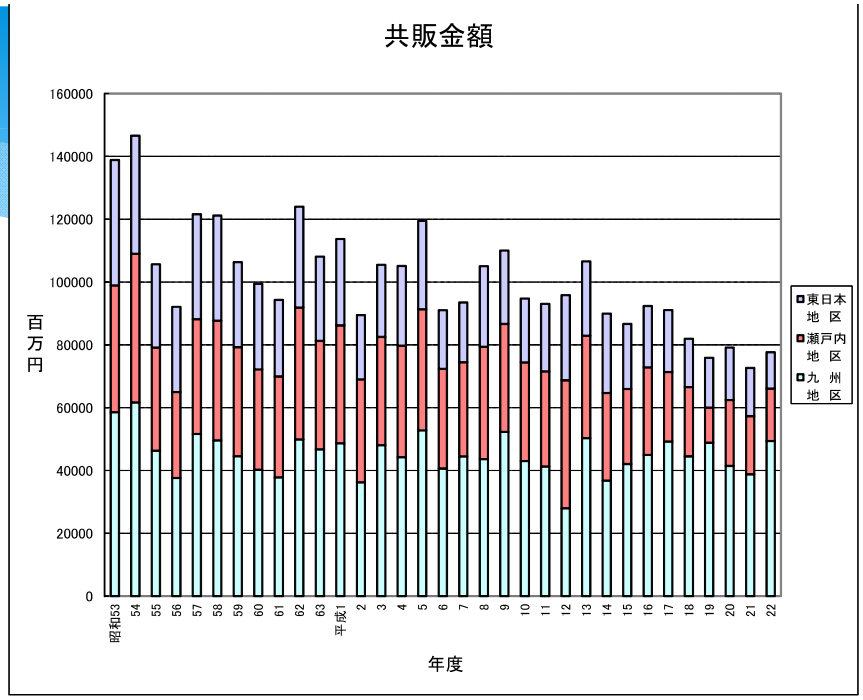
全国的には：　長期的に減少

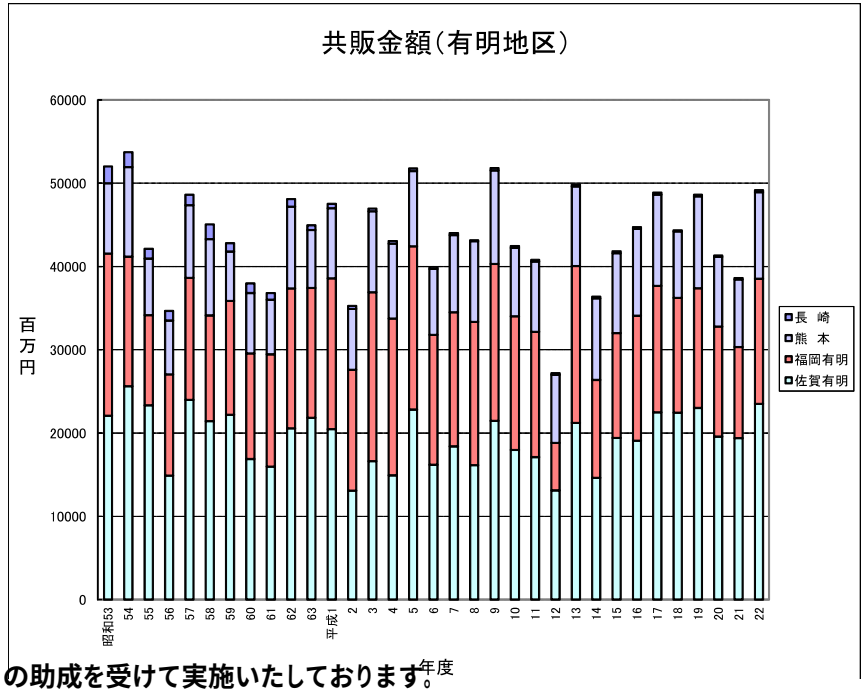
東日本地区：一方的に減少

瀬戸内地区：横ばい→減少へ

有明海地区：緩やかに減少

熊本県・福岡県：緩やかに減少
佐賀県　　横ばい





この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

佐賀県のノリ養殖業

（社法）中小企業診断協会佐賀県支部
「佐賀県におけるノリ養殖協業体の現状と課題」より

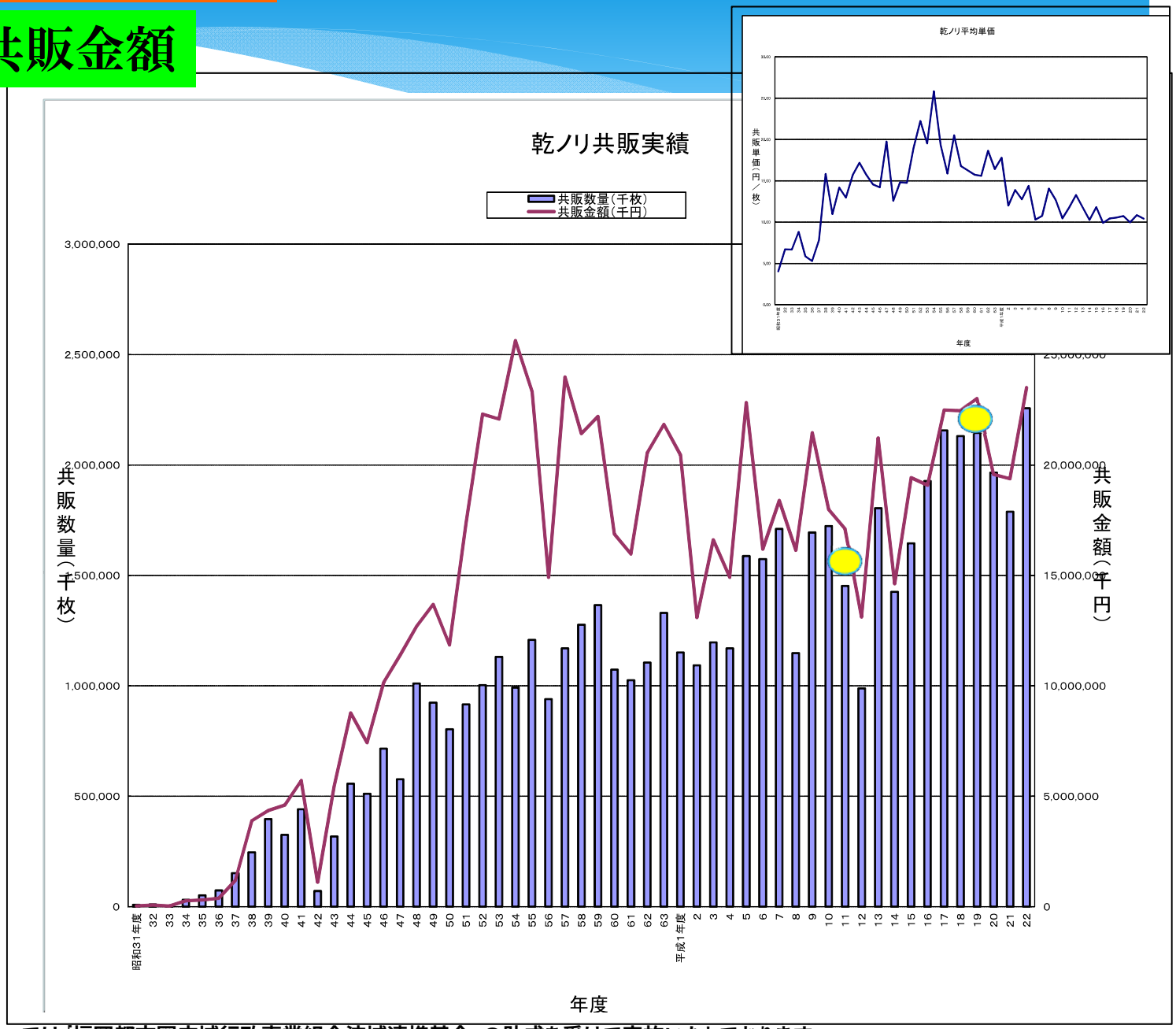
共販枚数と共販金額

昭和50年～
平成4年頃
10～13億枚

平成5年～
平成15年頃
15億枚程度

平成15年以降
18～20億枚

共販金額
昭和51年から
150～250億円



この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

ノリ養殖行使者数

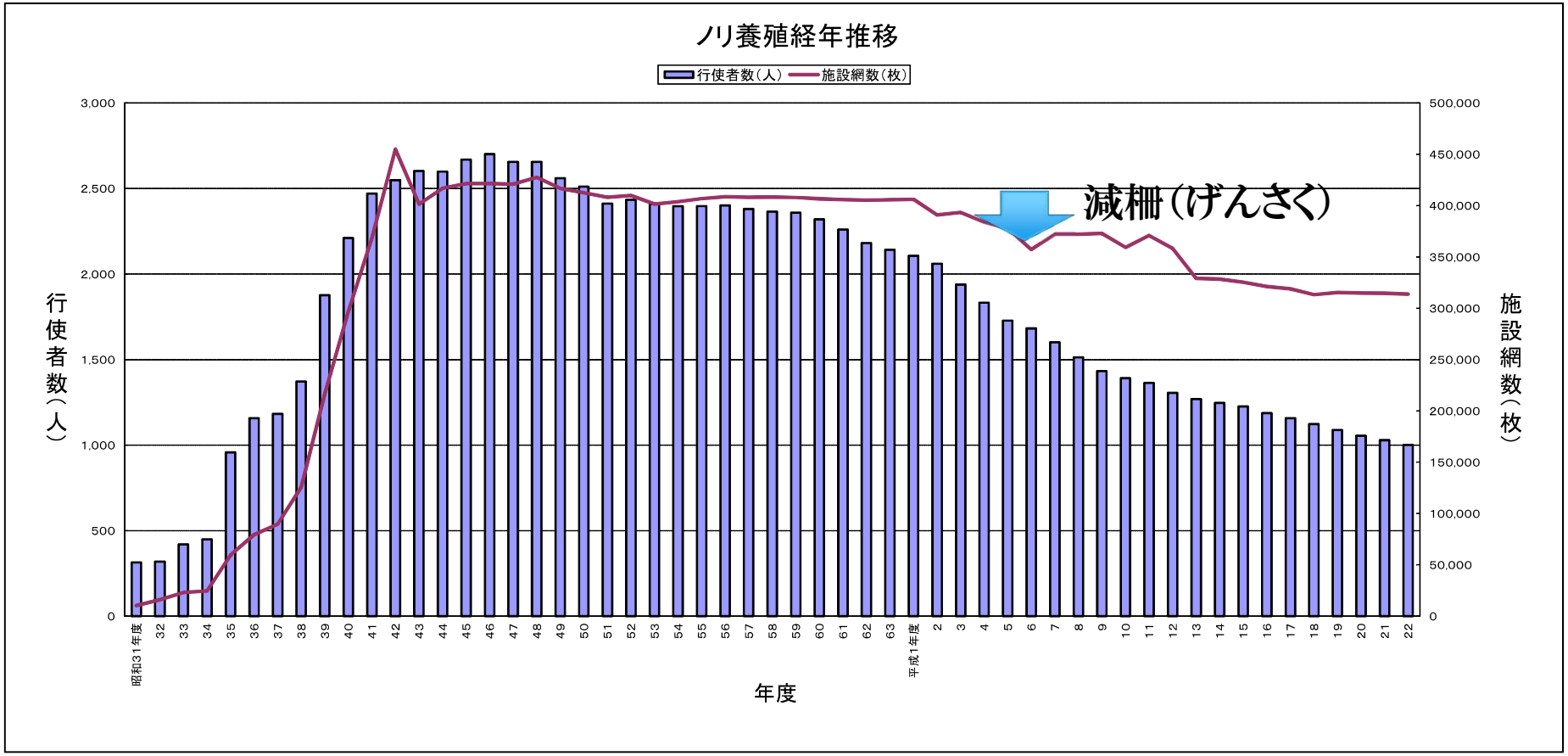
昭和46年（1971年）2701人をピークに減少

平成22年（2010年）1001人に減少

63％減

施設網数　42万枚（156枚/人）

31万枚（310枚/人）



この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

漁業経営調査平成16年(2004年)
家族型経営調査(有明海)海面ノリ養殖業

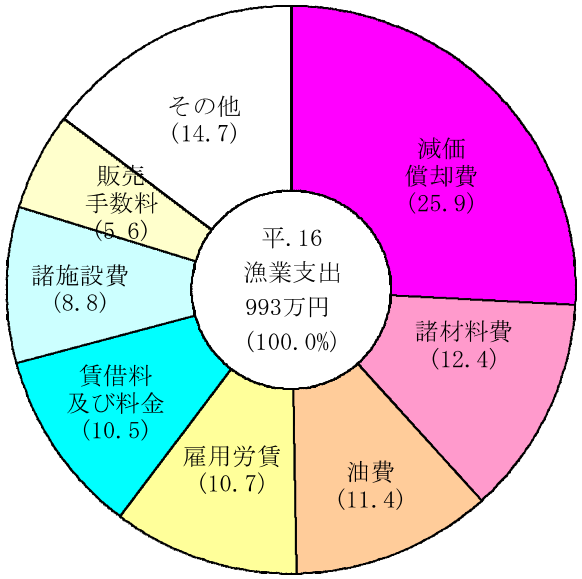
九州農政局統計部発表
(平成17年12月)

19戸の養殖業者のデータ(抽出データ)

漁業収入:　1,815万円
漁業支出:　　993万円
漁業所得:　　822万円

漁業支出の割合

図　支出の構成割合



漁業外所得:　　304万円
総所得　　:　1,126万円

表　家族型経営の概要（のり養殖業調査経営体一世帯当たりの平均）

	有明海		全国
	平.16	平.15	平.16
	万円	万円	万円
漁業所得	822	869	763
漁業収入	1 815	1 809	1 829
漁業支出	993	940	1 067
漁業外所得	304	341	347
総所得	1 126	1 211	1 110
漁業依存度(%)	73.0	71.8	68.7

注：　家族型のり養殖業（有明海）の集計戸数は、19戸です。

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

ノリ漁家の漁業収入・支出

漁業所得が大きく変動する
平成12年度（大規模な海苔の色落ち）の漁業所得が極端に低い

1　累年統計表

（有明海のり養殖業）調査経営体一世帯当たりの平均

単位：千円

調査年	漁業収入	漁業支出	雇用労賃	油費	諸材料費	減価償却費	漁業所得	漁業外所得	総所得
平成7年	16 36.3	9 54.5	42.7	97.9	94.8	3 73.4	6 51.8	3 20.0	9 70.8
8年	15 26.9	8 97.6	38.3	75.4	85.2	3 34.9	6 29.3	3 24.0	9 53.3
9年	20 51.7	10 95.3	64.2	84.2	99.1	3 65.7	10 06.4	3 84.2	13 060.6
14年	15 64.0	9 67.3	76.1	74.5	93.2	3 36.0	5 96.7	3 36.4	9 2 3.1
16年	15 84.3	9 96.4	54.6	74.1	90.5	3 54.9	5 77.9	4 02.0	9 7 9.9
16年	10 69.7	8 66.3	27.1	69.7	70.3	3 72.9	1 93.4	3 87.5	5 7 0.9
1年	20 20.0	9 26.6	92.2	98.1	1 11.1	2 83.5	10 23.4	3 89.2	14 1246
1年	15 00.1	9 80.3	46.2	90.7	1 26.6	2 93.4	6 39.8	2 87.1	9 206.9
18年	18 08	9 27	80	1 08	1 06	2 49	8 62	3 04	12 166
15年	18 43	9 90	1 09	1 18	1 25	2 50	8 23	3 01	11 23

注：　平成15年調査結果より表示単位未満を四捨五入しています。

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

地区別共販実績

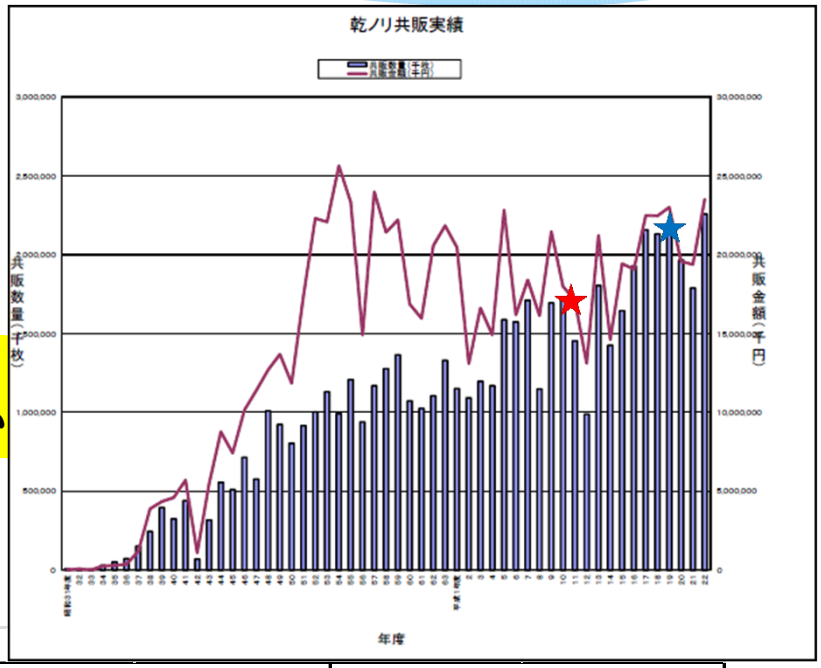
（社法）中小企業診断協会佐賀県支部
「佐賀県におけるノリ養殖協業体の現状と課題」より
瀧本慎也、伊藤康宏（島根大学生物資源科学研究科）修士論文を引用

2007年（平成19年）　21億4200万枚　平均単価10．72円
1999年（平成11年）　14億5200万枚　平均単価11．77円

2007年度

東部地区　　2,643万円/1漁家
西・南部地区　1,435万円/1漁家
平均単価：ほぼ同じ→枚数の違いだけ

西・南部地区は
1漁家あたりの柵数が少ない、1柵あたりの枚数が少ない



○2007年度佐賀有明地区別共販実績

年	地区	漁家数	柵数	行使者当たり柵数	1漁家あたり		1柵当たり	
					枚数（千枚）	金額（千円）	枚数（千枚）	金額（千円）
★ 2007	東部地区	467	144, 158	309	2, 467	26, 434	7, 990	85, 634
	中部地区	316	91, 728	290	1, 857	19, 884	6, 398	68, 500
	西・南部地区	305	79, 546	261	1, 332	14, 345	5, 108	55, 005
★ 1999	東部地区	598	175, 965	294	1, 228	14, 790	4, 173	50, 306
	中部地区	369	97, 882	265	993	13, 547	3, 743	51, 071
	西・南部地区	384	86, 478	225	793	8, 472	3, 521	37, 618

社団法人中小企業診断協会佐賀県支部「佐賀県における有明ノリ養殖協業体の現状と課題」報告書

東部地区（千代田、諸富、早津江、大託間、南川副、広江）　中部地区（東与賀、佐賀、久保田、芦刈、福富）
西・南部地区（白石町北明、新有明、龍王、鹿島、たら、大浦）

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

地区ごとの収入について

2007年

	地区	1漁家あたり			1柵あたり		
		売上額（千円）	漁業支出（千円）	漁業収入（千円）	枚数（千枚）	金額（千円）	一枚当たりの金額（円）
2007年	東部	26,434	9,980	16,454	7,990	85,634	10.7
	中部	19,884	9,980	9,904	6,398	68,500	10.7
	西・南部	14,345	9,980	4,365	5,108	55,005	10.8

1枚当たり金額→各地区ほぼ同じ→収入の違いは柵数の違いと1柵あたりの生産枚数の違い

西・南部地区

1柵あたりの生産枚数が少ない→栄養塩が不足している（地区の特徴）
1漁家あたりの柵数が少ない→ノリ漁家数が多すぎる

1999年

	地区	1漁家あたり			1柵あたり		
		売上額（千円）	漁業支出（千円）	漁業収入（千円）	枚数（千枚）	金額（千円）	一枚当たりの金額（円）
1999年	東部	14,790	9,980	4,810	4,173	50,306	12.1
	中部	13,547	9,980	3,567	3,743	51,071	13.6
	西・南部	8,472	9,980	(1,508)	3,521	37,618	10.7

西・南部地区

1枚当たりの単価が低い、1柵あたりの枚数が少ない→栄養塩が不足している
漁業収入が赤字→漁業支出を抑えたはず→漁業支出を抑える努力を（協業化等）

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

海苔共同委託加工事業に取り組んで

全国青年・女性漁業者交流大会

新有明漁協　片渕恵子

新有明漁協：　南有明漁協と有明町漁協が合併（平成3年）
組合員73名　内海苔養殖業者54名
1漁家平均298柵　平均耕作面積180アール
発足時133名海苔養殖業者→54名（平成17年）

女性部：　部員54名　わかしお石鹸全戸配布　浜清掃　定例会

協業化の動き：　贈答用海苔の需要減　業務用増加→単価低迷　反して資材高騰
コスト削減、作業負担の軽減、省力化

→ 海上作業及び陸上での乾燥加工まで全て協業化（平成7年度から）
有明海漁協13、81グループの協業

新有明漁協：　平成8年から6協業体が稼働→養殖技術、養殖規模の違い、意見の違い
平成13年から　摘採・海上作業は各自　乾燥加工を協業化

→ カントリー方式

カントリー方式の提案

1漁家当たり　　平均320柵
1柵平均摘採枚数　670枚
製造1枚当たり利用料　3円50銭

→

1製造ライン1時間1万枚→2ライン
全体利用計画3520柵　11漁家

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

協業体との違い

自分で摘採したものを自分のものとして売れる
製造は専属のオペレーター
利用者は海上の養殖管理に専念
規模拡大への可能性大

大変魅力的な事業

女性：　家事・子供の面倒
家族世話ができ、時間的余裕

最初に女性だけで寄合

次第に本音　オペレータには経験者を
自分たちでコスト計算→各人の水揚げ額・資産を公開（無理）
→小中大規模別生産コストを漁協に依頼

個人経営体
減価償却費
水道光熱費
雇用費

共同加工事業
委託加工費一本

コスト半分

個人経営体・共同加工体製造コスト比較比較表

（単位：千円）

項目	個人			共同加工		
	200柵	300柵	400柵	200柵	300柵	400柵
減価償却費	3,156	3,706	3,706	0	0	0
委託加工費	0	0	0	2,764	4,146	5,528
保守修繕費	435	741	994	200	200	200
消耗品費	1,100	1,650	2,200	596	894	1,192
水道光熱費	504	757	1,009	0	0	0
燃油代	726	1,089	1,452	230	230	480
雇用費	250	550	730	0	0	0
合計	6,171	8,493	10,091	3,790	3,790	7,400

「ノリ協業化に取り組んで」新有明漁協婦人部　片渕恵子
ホームページより抜粋

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

有明海漁業におけるノリ養殖の位置

「有明海佐賀県海域の海況と漁業等の現況」（平成25年3月）より

海面漁業・ノリ養殖業生産量・生産額　佐賀県農林水産統計年表より

ノリ類養殖　134億円～236億円　→全体に占める割合80％～95％

海面漁業
2万トン→2500トン
（平成元～8年）　平成21年

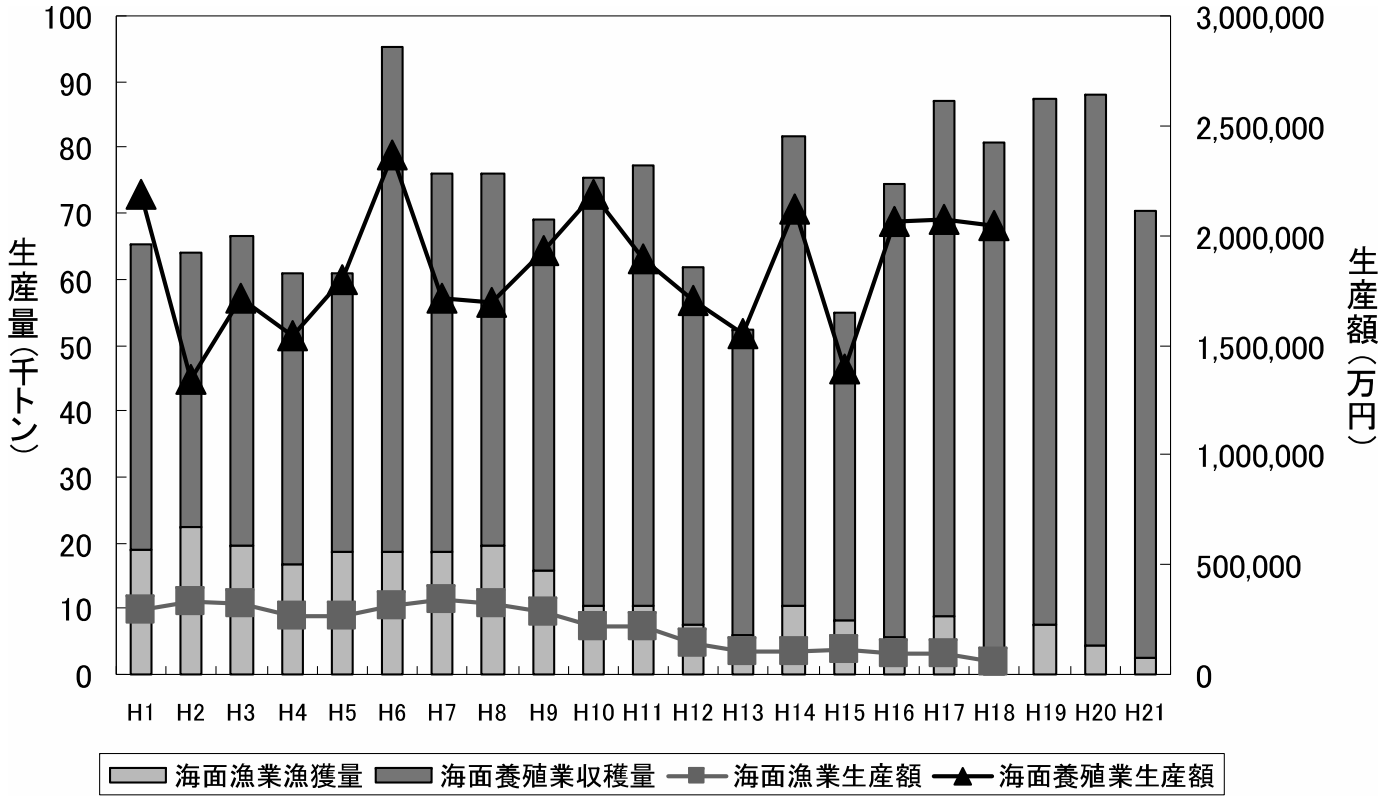


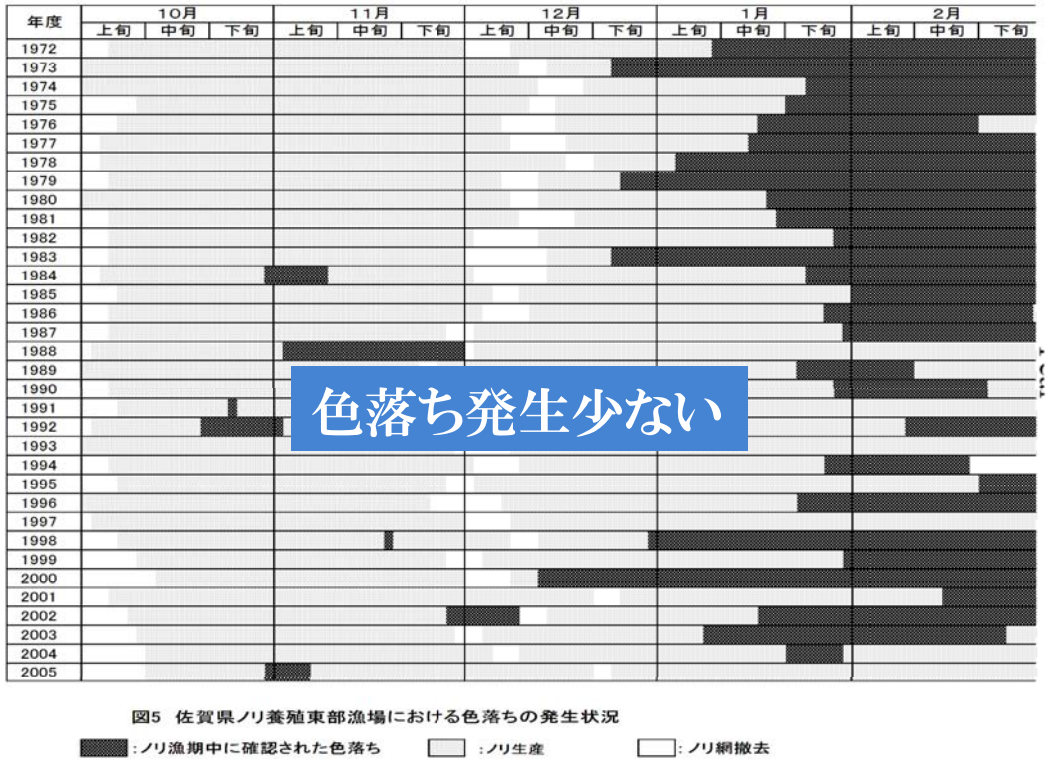
図25　海面漁業・養殖業別生産量・生産額の推移

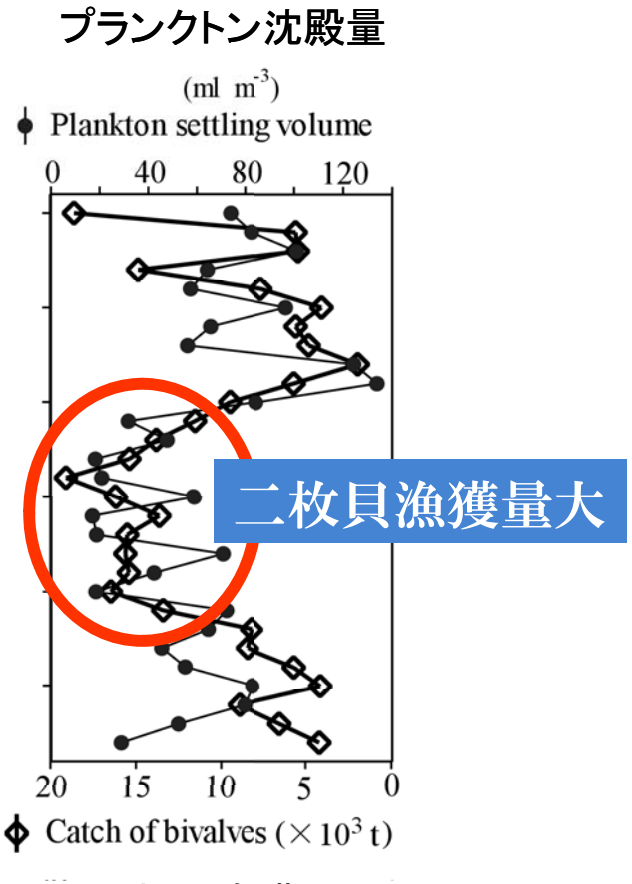
この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

二枚貝とノリの色落ちとの関係

二枚貝漁獲量が多い時期(1988年~1997年)は比較的海苔の色落ちが発生していないことを明らかにし、**海苔生産の安定化には二枚貝の増殖が有効であることを示唆**

佐賀大学速水准教授





佐賀県ノリ養殖東部海域における色落ち発生状況(川村，2006)

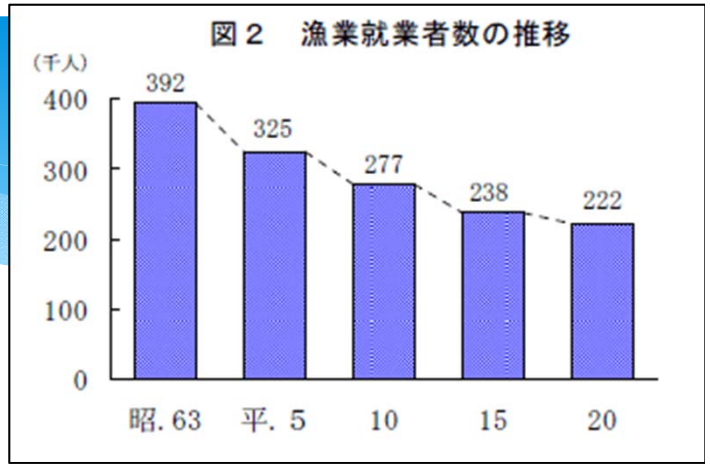
二枚貝漁獲量

7

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

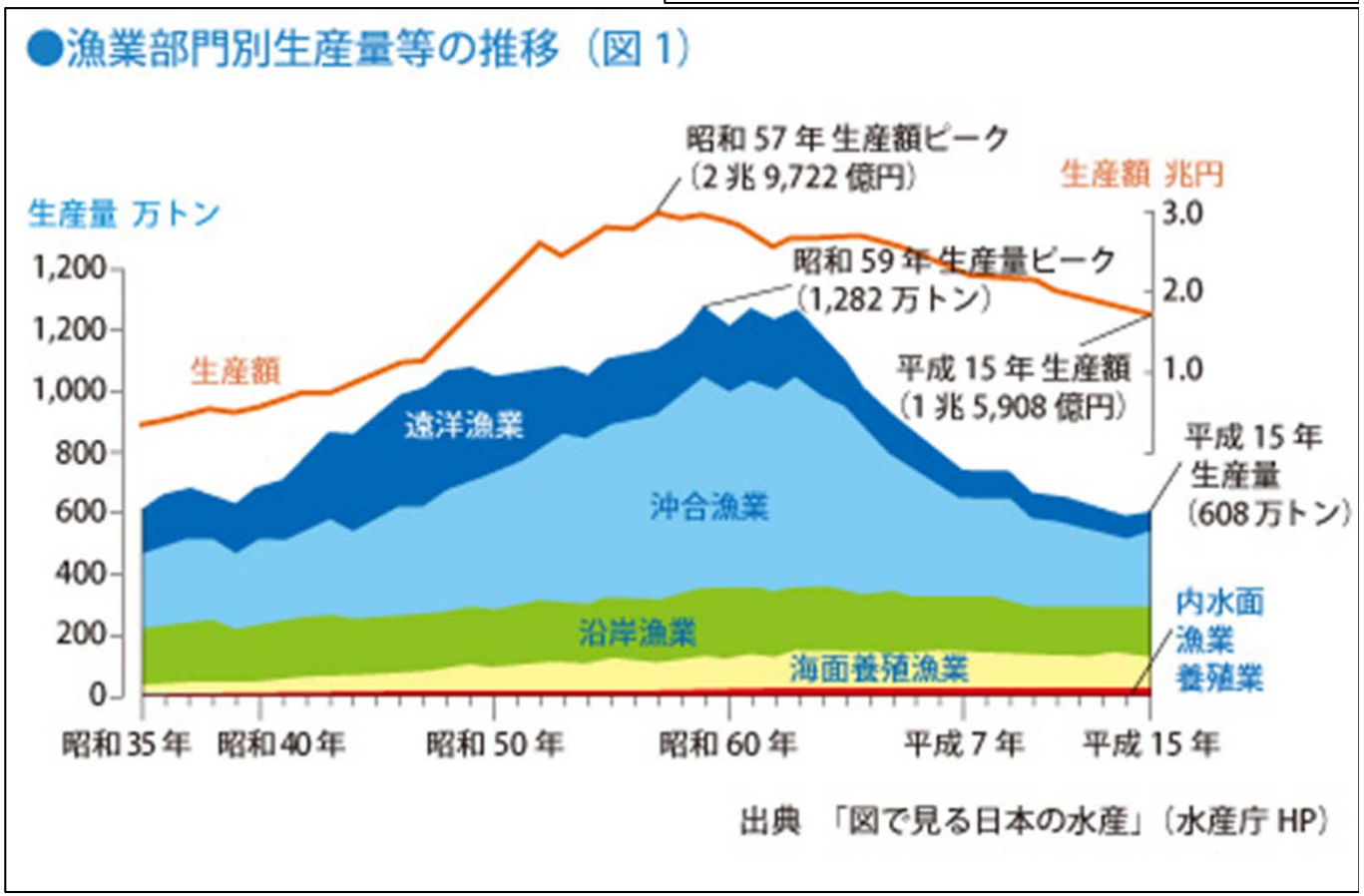
日本全体の水産業の推移

沿岸漁業：　小型の漁船で海岸近くで行うもの（養殖を含む）
沖合漁業：　やや離れた沖合で中型の漁船で行うもの
遠洋漁業：　遠くはなれた場所で大型の漁船で行うもの
内水面漁業：　川や湖沼などの淡水域で行うもの



沿岸・海面養殖漁業は変動していない

沿岸漁業が中心
9400億円→6割
漁業者→9割



ホームページ「日本の水産業の現状と未来」より

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

平成26年3月22日
シンポジウム「今こそ有明海の現状と未来を考えよう」

海苔産業情報センター
福岡県朝倉郡筑前町依井1091-3
代表　藤井弘治

「海苔ジャーナル」刊行

「流通体制から見た海苔養殖業の課題と将来展望」

贈答用（主として建設業者）→増産体制（浮き流し、冷凍網等）→過当競争

生産枚数70億枚　→　100億枚

海苔流通の問題点

海苔共同販売制度（共販）

- 生産者の利益を保護育成する上で共同販売を行うことは当然だと思います
- 「全量集荷・全量販売」契約には問題がある

「乾海苔入札及び売買契約書
第2条　1.　甲（共販団体）はその所属会員により生産される乾海苔全量を集荷するように努め、これを指定商社（甲により入札参加資格者と認められた商社）に優先的に売り渡すものとする。

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

「海苔共販に関する確認書」
1．入札指定商社の資格条件について
（4） 指定商社は甲の乾海苔共販事業に出品された乾海苔以外に、直接、間接を問わず、甲の属する地域で生産された乾海苔の買い付けを行わないものとする。但し、甲は甲の属する地域で生産された乾海苔の全量集荷に努め、生産者代表との間でその旨を明記した覚書を取り交わし、その写しを九州地区漁連共販開始前までに乙（入札指定商社組織）に提出する。

昭和34年「全九州乾海苔共販協議会」と指定商社の任意組織「全九州入札指定商組合」との間に交わされた内容を継承

昔は売り手市場→現在は買い手市場

同じ等級の製品が1000箱単位で出される
→同一グループでは変えないので他のグルーと共同→談合価格（低額）
→低質品を低価格で購入→
→コンビニ等の業務用が7割→単価は低め→量を採る漁業へ
→海苔業界全体が「低きに流れる負のスパイラル」

価格を上げる努力を

本当に美味しい海苔を1枚100円で売る→輸出も
手漉き海苔の試み→佐賀市支所婦人部→三角天草（100円以下では絶対売らない）
海苔の原藻は全量集荷・全量販売の対象外→畜産、化粧品、薬品、調味食品等

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

（表６）　◎生産枚数に対する業態別年間需要枚数・比率

年 / 用途	2013		2012		2011		2010		2009	
	枚　数	比　率	枚　数	比　率	枚　数	比　率	枚　数	比　率	枚　数	比　率
贈　答　用	2.5	2.9	3	3.6	3	3.5	3	3.6	3	3.5
家　庭　用	22.5	26.5	22	26.2	23	26.7	22	26.2	23	27.1
業　務　用	60.0	70.6	59	70.2	60	69.8	59	70.2	59	69.4
合　　計	85	100.0	84	100.0	86	100.0	84	100.0	85	100.0
生産枚数	82	103.6	78	107.7	85	101.2	80	105.0	91	93.4

（注）単位：枚数・億枚。比率・%。（資料）民間調査機関による海苔商社への聞取り調査。

（表７）　◎業態別市場規模（推計消費額）

年 / 用途	2013		2012		2011		2010		2009	
	金　額	前年比	金　額	前年比	金　額	前年比	金　額	前年比	金　額	前年比
贈　答　用	270	100.0	270	90.0	300	100.0	300	100.0	300	75.0
家　庭　用	805	104.5	770	111.6	690	112.0	616	95.7	644	89.4
外　食　用	753	101.0	735	100.7	730	91.8	795	99.6	798	95.7
業務加工	107	98.2	109	109.0	100	109.9	91	98.9	92	113.3
合　　計	1,935	102.7	1,884	103.5	1,820	101.0	1,802	98.3	1,833	90.1

（注）単位：枚数・億枚。比率・%。業務加工は「ふりかけ、茶漬け」（資料）民間調査機関による海苔商社への聞取り調査。

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

海苔共販価格帯枚数と比率の推移

（表８）

海苔共販価格帯枚数と比率の推移

年度	３～４円	４～５円	５～10 円	10～15 円	15～20 円	20～25 円	25～30 円	30 円以上	共販枚数
Ｈ２４	430,505 5.3	346,658 4.3	5,126,428 63.4	1,916,939 23.7	178,527 2.2	54,731 0.7	22,036 0.3	12,018 0.1	8,087,843 100.0
Ｈ２０	152,008 1.7	614,150 6.8	5,028,772 56.0	2,945,264 32.8	148,296 1.7	53,406 0.6	21,866 0.2	13,461 0.1	8,977,222 100.0
Ｈ１５	625,829 7.4	422,292 5.0	2,502,110 29.7	4,182,285 49.6	382,040 4.5	114,711 1.4	48,419 0.6	34,230 0.3	8,433,167 100.0
Ｈ１０	578,855 5.8	598,965 6.0	4,808,905 47.8	3,425,105 34.0	391,517 3.9	146,353 1.5	72,577 0.7	37,547 0.3	10,059,823 100.0
Ｈ５	145,321 1.4	171,239 1.6	4,174,716 40.3	4,644,962 44.8	711,570 6.9	231,327 2.2	117,538 1.1	172,308 1.7	10,368,972 100.0
Ｓ６３	57,989 0.6	263,000 2.6	6,408,739 62.3	2,229,959 21.6	571,459 5.5	308,949 3.0	198,444 1.9	265,692 2.6	10,304,231 100.0
Ｓ５８	120,334 1.2	350,917 3.5	3,933,464 39.7	3,012,738 30.4	1,524,219 15.4	507,064 5.1	215,518 2.2	249,105 2.5	9,913,359 100.0
Ｓ５５	406,340 5.5	397,737 5.3	1,728,951 23.2	1,800,836 24.2	1,788,726 24.0	768,097 10.3	247,083 3.3	302,914 4.0	7,440,684 100.0
Ｓ５０	73,498 1.1	162,040 2.5	2,876,530 44.4	2,183,152 33.7	861,322 13.3	192,818 3.0	56,880 0.9	77,851 1.2	6,484,970 100.0
Ｓ４５	―	1,019,731 19.10	1,673,717 31.34	1,589,389 29.76	834,247 15.62	122,324 2.29	47,004 0.87	55,254 1.03	5,341,666 100.0

（過去２０年間の５年毎価格帯の推移）（単位：上段・枚数千枚。下段・比率％）

（資料：全国漁連のり事業推進協議会）

入札価格帯の低価格化→食材の多様化に埋没→海苔産業の衰退へ？

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

生産数と単価の変遷

（表３）　日本３地区の生産数と単価の変遷

項目／年度	東日本		瀬戸内海		九　州		全　国	
	共販枚数	単価	共販枚数	単価	共販枚数	単価	共販枚数	単価
55 年度	2,203,785	12.84	2,499,927	14.06	2,923,064	15.64	8,011,505	14.36
56 年度	2,287,004	12.41	2,179,518	12.56	2,953,112	13.13	7,849,800	12.63
57 年度	1,837,995	17.68	2,188,156	16.05	2,723,974	18.67	7,087,743	17.46
58 年度	2,748,369	12.28	3,185,436	11.97	3,479,007	14.17	9,915,377	12.76
59 年度	2,296,212	11.88	2,708,692	13.00	3,262,292	13.64	8,672,548	12.88
60 年度	2,581,735	10.55	2,966,850	10.76	3,118,163	12.91	9,074,729	11.41
61 年度	2,261,061	10.80	2,849,925	11.41	3,165,466	11.94	8,709,270	11.36
62 年度	2,558,346	12.55	3,239,054	12.97	3,270,064	15.25	9,421,627	13.59
63 年度	2,805,626	9.76	3,734,885	9.38	3,763,781	12.40	10,601,188	10.53
1 年度	2,633,444	10.45	3,676,298	10.21	3,699,795	13.14	10,259,501	11.30
2 年度	2,047,178	9.99	3,255,558	9.99	3,396,754	10.66	8,948,877	10.21
3 年度	2,102,706	10.90	3,403,637	10.12	3,875,824	12.39	9,632,074	11.18
4 年度	2,345,632	10.80	3,465,884	10.25	3,760,913	11.75	9,815,209	10.94
5 年度	2,545,242	11.05	3,837,725	10.05	4,070,112	12.96	10,657,190	11.40
6 年度	2,092,393	8.90	3,552,291	8.94	4,246,666	9.56	10,131,080	9.16
7 年度	2,092,347	9.10	3,352,122	8.95	4,472,951	9.94	10,127,664	9.39
8 年度	2,281,356	11.26	3,304,248	10.82	3,448,401	12.64	9,184,941	11.59
9 年度	2,268,007	10.29	3,524,522	9.76	4,321,425	12.09	10,298,117	10.85
10 年度	2,186,521	9.30	3,679,362	8.54	4,193,940	10.25	10,236,040	9.40
11 年度	2,304,220	9.35	3,447,077	8.76	3,734,741	11.05	9,678,503	9.78
12 年度	2,202,120	12.33	3,541,896	11.51	2,401,571	11.63	8,296,374	11.75
13 年度	2,404,955	9.85	3,651,770	8.93	4,468,678	11.25	10,686,178	10.11
14 年度	2,550,996	9.89	3,230,715	8.64	3,908,560	9.41	9,845,637	9.26
15 年度	2,084,638	9.95	2,561,834	9.32	3,786,696	11.01	8,540,129	10.27
16 年度	1,959,110	9.96	2,884,220	9.68	4,562,938	9.85	9,542,647	9.81
17 年度	2,139,424	9.21	2,690,145	8.23	4,977,451	9.88	9,944,020	9.26
18 年度	1,828,149	8.41	2,935,154	7.52	4,685,887	9.49	9,567,799	8.65
19 年度	1,866,890	8.51	1,574,386	7.09	5,060,567	9.65	8,628,309	8.90
20 年度	1,876,939	8.90	2,706,008	7.75	4,394,276	9.44	9,089,485	8.80
21 年度	1,714,497	8.93	2,403,834	7.71	3,809,730	10.18	8,023,906	9.15
22 年度	1,300,830	8.94	2,100,289	7.68	5,040,103	9.90	8,551,011	9.19
23 年度	1,078,773	10.15	2,497,679	9.17	4,093,984	10.37	7,773,763	9.94
24 年度	1,284,186	8.16	2,230,438	7.22	4,573,219	9.35	8,187,636	8.53

（資料）全国漁連のり事業推進協議会

◇東日本＝宮城、千葉、愛知、三重

◇瀬戸内海＝兵庫、岡山、広島、香川、愛媛、山口（H22 年度以降は九州地区へ編入）

◇九州＝福岡、福岡有明、佐賀有明、長崎、熊本、大分、鹿児島、山口（H22 年度より）

商品と原料価格帯

（表９）　◎商品と原料価格帯

用途	対象商品・販売価格	原料価格帯（入札価格・１枚）
家庭用	おかず８Ｐ　①定番品 200～348 円	１０円台
	②低価格品 200 円未満	５～６円台
	③ＰＢ248～278 円	７円台
	焼海苔（10 枚）198 円以下	６～７円台
	248～298 円	８～１０円台
	300 円台	１２円台
	400 円台	１３～１４円台
	おにぎり（3 切 30 枚入り）298 円台	７～８円
	卓上ボトル（10 切 100 枚入り 298 円	６～７円台
	韓国産使用 248 円	
	8 切 50 枚入り、60 枚入り	１１～１２円台
	500 円高級タイプ	１５～１８円台
贈答用	デパート高額品ギフト	１７円以上
	普及品ギフト	１３円以上
	スーパー・通販ギフト	１２円以上
	仏事セット	１２円以上
	仏事即返礼用	７～８円台
外食用	コンビニおにぎり	８～１１円台
	弁当おにぎり	５～８円台
	スーパー総菜用	７～９円台
	回転すし	６～９円台
	すし店、手作りおにぎり	１０～１５円台
	トッピング刻み用	５～６円台
加工用	お茶漬け、ふりかけ	５～８円台
	一般佃煮（原藻佃煮を除く）	３～４円台

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

海苔の輸入実績

（表１０）　　２２～２５年の海苔の輸入状況

	平成２２～２５年輸入実績					
国別	韓国		中国		月計	
輸入月	数量	金額	数量	金額	数量	金額
１月	6, 396	34, 273	6, 914	43, 617	13, 310	77, 890
２月	64	324	5, 385	26, 548	5, 449	26, 872
３月	3, 429	15, 857	7, 767	38, 431	11, 196	54, 288
４月	8, 693	36, 572	11, 588	75, 379	20, 281	111, 951
５月	24, 488	122, 587	13, 584	92, 338	38, 072	214, 925
６月	73, 252	377, 403	10, 226	68, 794	83, 478	446, 197
７月	115, 345	647, 992	14, 809	100, 103	130, 154	748, 095
８月	34, 620	191, 099	2, 047	10, 833	36, 667	201, 932
９月	16, 257	75, 190	13, 585	88, 793	29, 842	163, 983
１０月	797	3, 691	16, 019	124, 788	16, 816	128, 479
１１月	11, 589	55, 811	12, 385	104, 185	23, 974	159, 996
１２月	11, 090	70, 282	16, 016	138, 502	27, 106	208, 784
中間合計	306, 020	1, 631, 081	130, 325	912, 311	436, 345	2, 543, 392
平均単価	５．３３		７．００		５．８３	
24 年度	327, 638	1, 640, 738	152, 694	832, 167	480, 332	2, 472, 905
平均単価	５．０１		５．４５		５．１５	
23 年度	241, 323	1, 152, 000	78, 394	309, 696	319, 717	1, 461, 696
平均単価	４．７７		３．９５		４．５７	
22 年度	133, 670	676, 670	40, 671	151, 553	174, 341	828, 223
平均単価	５．０６		３．７２		４．７５	

（注）単位：千枚、千円。平均単価：１枚当り円

（資料）財務省・統計局「通関統計」より

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。

ご清聴ありがとうございました

この有明海市民講座の実施に当たっては「福岡都市圏広域行政事業組合流域連携基金」の助成を受けて実施いたしております。